

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第73期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 スターゼン株式会社

【英訳名】 Starzen Company Limited

【代表者の役職氏名】 取締役社長 秋山 律

【本店の所在の場所】 東京都港区港南一丁目6番41号

【電話番号】 03(3471)5521(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 財務経理本部長 中井 俊夫

【最寄りの連絡場所】 東京都港区港南一丁目6番41号

【電話番号】 03(3471)5521(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 財務経理本部長 中井 俊夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第72期 第2四半期 連結累計期間	第73期 第2四半期 連結累計期間	第72期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	128,086	128,313	262,832
経常利益	(百万円)	1,506	1,149	3,362
四半期(当期)純利益	(百万円)	982	465	1,661
四半期包括利益又は 包括利益	(百万円)	187	181	1,288
純資産額	(百万円)	24,121	24,862	25,199
総資産額	(百万円)	93,014	94,743	95,432
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	13.16	6.23	22.25
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	25.6	26.0	26.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,916	1,341	1,062
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,658	1,539	5,410
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,435	3,431	1,172
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,285	10,617	10,227

回次		第72期 第2四半期 連結会計期間	第73期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり 四半期純利益金額	(円)	6.91	0.99

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第72期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については以下のとおりであります。

(食肉関連事業)

食肉関連事業において、連結子会社であった(株)美保野ポークは持分割合が減少し、関連会社になったこと

とから、持分法の適用範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の被害を受け、東日本を中心に、サプライチェーンの機能停止による原材料の調達不安、流通網の混乱、電力供給不足など、企業の生産活動が大きな制約を受ける状況下で推移いたしました。

第2四半期に入り、徐々に、震災被害からの復旧や回復需要による個人消費持ち直しの兆しも見えてきております。

しかしながら、食肉業界においては、4月に発生した焼肉店での食中毒事件の発生により外食需要が落ち込み、7月に発生した牛肉の放射性物質汚染問題により、食肉の消費需要は、さらに不振の中で推移することとなりました。

牛肉の放射性物質汚染問題は牛枝肉相場の低迷の引き金となり、東北地方を中心に国産牛の生産者に多大な被害をもたらしました。この生産基盤の回復には、相当の時間を要するものと思われま

す。このような状況の中で、当社は国産牛肉の落ち込みをカバーするため、鶏肉・豚肉をはじめ、加工食品など幅広く拡売に努めた結果、取扱重量で前年並み以上を確保することが出来、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,283億13百万円（前年同四半期比0.2%増）となりました。また、営業利益は7億60百万円（前年同四半期比36.2%減）、経常利益は11億49百万円（前年同四半期比23.7%減）、四半期純利益は4億65百万円（前年同四半期比52.6%減）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

<食肉関連事業>

食肉関連事業の売上高は1,271億24百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。また、品目別の業績は次のとおりであります。

（食肉）

国産牛肉は、4月に発生した焼肉店での食中毒事件発生により外食需要が落ち込み、さらに7月に発生した放射性物質による汚染問題により枝肉相場が低迷し、一部産地での集荷が困難になりました。

こうした中、当社は業界に先駆け、検査体制を構築して国産牛肉の安全性確保に努め、取扱重量の維持に注力してまいりましたが、厳しい消費需要の減退により、和牛肉を中心に国産牛肉の取扱重量と売上高ともに減少するに至りました。

国産豚肉は、全国的な出荷頭数の減少に伴う相場高によって需要が低迷したことから、販売は厳しい状況となり、取扱重量と売上高ともに前年を確保することができませんでした。

国産鶏肉は、主要産地である東北地区が回復傾向にあることから、供給拡大を図った結果、売上高は前年を上回りましたが、取扱重量は前年未達に終わりました。

一方、輸入牛肉は生産地価格高騰により輸入調整を行なったため、取扱重量と売上高ともに前年未達となりました。輸入豚肉は、積極的な拡売を推進しましたが、取扱重量と売上高ともに前年並みにとどまりました。

輸入鶏肉は、第1四半期の国産品の不足を補うために輸入量を増加したことから、取扱重量と売上高ともに前年を大幅に上回りました。

食肉部門においては、幅広く拡売に努めましたが、売上高は1,046億83百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

（加工食品）

震災直後は、加工食品の需要増が見られましたが、その後、食中毒事件の発生により、焼肉商材の販売に苦戦しました。第2四半期に入ると、猛暑の影響、節電意識の高まりにより、調理済食品を購入する傾向が高まりました。このため、ハンバーグなどの調理加工品の販売を強化し、多品目で商品の販売拡大につとめました。さらに、昨年の食品加工企業の買収効果もあり、加工食品部門の売上高は156億47百万円（前年

同四半期比8.9%増)となりました。

(ハム・ソーセージ)

当第2四半期連結累計期間は、放射能物質による汚染問題により、牛肉を主体とした加工品やミートギフト及び惣菜製品の販売量の減少を招きました。加工品全体では、第1四半期後半からの高価格帯商品の消費低迷が顕著となり、中元ギフトの販売量が伸び悩みました。

幅広く拡売に努めた結果、ハム・ソーセージ部門の売上高は51億71百万円(前年同四半期比4.4%増)となりました。

(その他)

その他につきましては、売上高16億22百万円(前年同四半期比12.4%減)となりました。

<その他の事業>

その他の事業は主に外食関連事業及び製麺事業等で、売上高11億89百万円(前年同四半期比7.7%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べて、65百万円減少し、575億24百万円となりました。これは、主として商品及び製品が増加したものの、売掛金が減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて、6億11百万円減少し、371億66百万円となりました。これは、主として第1四半期連結累計期間より、連結の範囲から除外した会社があった為、建物及び構築物、土地が減少したことによります。

この結果、総資産では、前連結会計年度末に比べて、6億89百万円減少し、947億43百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比べて、27億14百万円減少し、449億80百万円となりました。これは、主として買掛金が減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて、23億62百万円増加し、248億99百万円となりました。これは、主として長期借入金が増加したことによります。

この結果、負債合計では、前連結会計年度末に比べて、3億51百万円減少し、698億80百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末と比べて3億37百万円減少し、248億62百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、106億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億89百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果、使用した資金は13億41百万円(前年同四半期は19億16百万円の支出)となりました。

これは主に、減価償却費の計上額12億10百万円があったものの、たな卸資産の増加額12億19百万円および仕入債務の減少額20億72百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果、使用した資金は15億39百万円(前年同四半期は16億58百万円の支出)となりました。

これは主に、固定資産の取得による支出16億42百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果、得た資金は34億31百万円(前年同四半期は14億35百万円の収入)となりました。

これは主に、借入れによる収入46億32百万円(純額)によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社株式の大規模な買付行為等の是非については、最終的に株主の皆様判断に委ねられるべきものと考えており、そのために株主の皆様が適切な状況判断を行えるよう、十分な情報提供と考慮期間を設ける必要があると認識しております。

また、当社は、一概に当社株式に対しての大規模な買付行為等に対して否定的な見解を有するものではありません。しかしながら、近時の大規模な買付行為の中には、

- 1) 当社株式の大量買付の目的が真摯に合理的な経営を目指すものではないことが明白であるもの
- 2) 買収者が一般株主に対し、不利益な条件で株式売却を事実上強要する恐れがあるもの
- 3) 買収者が、一般株主が適切に判断するために必要な情報の提供や考慮期間を用意していないもの
- 4) 買収者が当社取締役会に対し、買収提案および事業計画等の提示、並びに交渉機会、考慮期間を用意していないもの等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることにならないものも想定されます。

そのような買付行為を行う者は、当社の会社支配に関する基本方針に照らして適当でないと判断し、企業価値ひいては株主共同の利益を確保する為に、不適切な者からの大規模な買付行為等を防止するために何らかの対抗処置を講ずる必要があると考えます。

会社支配に関する基本方針の実現に資する取り組み

当社では、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保するための取り組みとして、以下の施策を実施しております。

経営集団の形成に資する取り組み

平成21年度を初年度とした3ヵ年計画を策定し、分社化後の各社の機能ごとに目標を明確にし、その達成に向けて取り組んでまいりましたが、新たな体制で平成23年度を初年度とする新3ヵ年計画を策定し、当社のコアビジネスである食肉卸売事業を拡充し、食肉製品・食品の生産拡大、新規販売チャネルの開発、新たなビジネスモデルの確立などグループ全体の企業価値拡大のために、以下の課題に取り組んでおります。

- ・ 食肉調達事業・・・食肉の安定供給を第一として国内生産および集荷基盤をより一層拡充する為、国内肥育生産事業を強化し併せて、海外からの供給を安定したものにすべく海外産地開発等集荷基盤の拡充を図っております。
- ・ 食肉等卸売事業・・・集荷した食肉等を自社の物流機能を通じて日本全国に供給できる体制の構築はもとより、市場シェア拡大のための営業拠点の新設、物流合理化を目的としたシステム化、センター化の推進を図っております。
- ・ 食品製造事業・・・新商品開発の強化、製造コストの削減、得意先ニーズに合わせた迅速な商品供給を図っております。

また、当社グループの最も重要である社会的責任は、安全、安心な食肉、食品を安定供給することであり、そのためのサプライチェーンを構築することです。特に、取り扱い商品には万全の体制をとるべく、国際認証の品質管理システム『SQF2000』の導入を推進しており、平成23年9月末には、当業界では最も多い152箇所の事業所、ならびに工場が認定を受けております。さらに外部専門機関の定期検査を受け安全、安心に注力し、これまでの取り組みを通して企業価値の拡大のために事業を通じて、CSR、コンプライアンスの徹底、環境問題を意識した取り組みを行っております。

当社グループは、以上のような取り組みを基本として、企業価値ひいては株主共同の利益の一層の向上を追求し、さらには財務体質の強化と内部留保の充実を考慮しつつ、株主利益を重視した配当政策を実施してまいります。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みの概要

当社は、会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるための取り組みとして、平成22年5月10日開催の当社取締役会において、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策」（以下「本プラン」といいます。）の継続を決議し、平成22年6月29日開催の第71回定時株主総会において、本プランの継続について承認を得ております。

本プランの対象となる当社株式の大規模買付行為とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。

本プランにおける大規模買付時の情報提供と検討時間の確保等に関する一定のルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）は、1)事前に大規模買付者が当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、2)必要情報の提供完了後、対価を現金のみとする公開買付による当社株式の買付の場合は最長60日間、またはその他の大規模買付行為の場合は最長90日間を当社取締役会による評価・検討等の取締役会評価期間として設定し、取締役会評価期間が経過した後に大規模買付行為を開始するというものです。ただし、対抗措置の内容について株主意思確認手続きをとった場合は、対抗措置の発動、不発動の手続きが完了するまでは、大規模買付行為は開始できません。

本プランにおいては、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守した場合には、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。但し、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合、遵守しても当該大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断する場合には、必要かつ相当な範囲で新株予約権の無償割当等、会社法その他の法律及び当社定款が認める検討可能な対抗措置をとることがあります。

このように対抗措置をとる場合、その判断の合理性及び公正性を担保するために、取締役会是对抗措置の発動に先立ち、当社の業務執行を行う経営陣から独立している社外監査役又は社外有識者から選任された委員で構成する独立委員会に対して対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会是对抗措置の発動の是非について、取締役会評価期間内に勧告を行うものとし、当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、独立委員会の勧告を最大限尊重します。

なお、本プランの有効期限は平成25年6月に開催される当社第74回定時株主総会の終結の時までとなっております。ただし当社株主総会において本プランを廃止する旨の株主の一定割合の意思表示が行われた場合、又は当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議等が行われた場合にはその時点で廃止されます。

本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないことについて

本プランは、1)買収防衛策に関する指針の要件を充足していること、2)株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること、3)株主意思を反映するものであること、4)独立性の高い社外者の判断を重視するものであること、5)デッドハンド型やスローハンド型の買収防衛策ではないこと、の理由から、基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は21百万円であります。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりであります。

会社名	セグメントの名称	設備の内容	完成年月
(株)青木食品	その他の事業 (製麺業)	製麺工場 新設移転	平成23年8月

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	87,759,216	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株 であります。
計	87,759,216	同左		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		87,759		9,899		5,832

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	3,249	3.70
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町一丁目13番2号	3,044	3.46
クレディ スイス ルクセンブル グ エスエー オン ビハーフ オ ブ クライアーツ	56, GRAND RUE L-1660 LUXEMBOURG	3,000	3.41
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	2,799	3.18
スターゼン社員持株会	東京都港区港南一丁目6番41号	2,780	3.16
株式会社鷯橋興産	東京都品川区豊町六丁目8番5号	2,349	2.67
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町一丁目2番1号	2,216	2.52
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町一丁目1番5号	1,603	1.82
横浜冷凍株式会社	神奈川県横浜市神奈川区守屋町一丁目 1番7号	1,532	1.74
三井生命保険株式会社	東京都千代田区大手町二丁目1番1号	1,500	1.70
計		24,075	27.43

- (注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式13,110千株(14.93%)があります。
 2. クレディ スイス ルクセンブルグ エスエー オン ビハーフ オブ クライアーツの所有株式数は、全て信託業
 務に係るものであります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,110,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 74,242,000	74,242	
単元未満株式	普通株式 407,216		
発行済株式総数	87,759,216		
総株主の議決権		74,242	

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式145株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) スターゼン株式会社	東京都港区港南一丁目6番 41号	13,110,000		13,110,000	14.93
計		13,110,000		13,110,000	14.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,483	10,875
受取手形及び売掛金	29,107	26,904
商品及び製品	10,425	11,727
仕掛品	579	314
原材料及び貯蔵品	1,331	1,157
その他	5,807	6,659
貸倒引当金	146	116
流動資産合計	57,589	57,524
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,052	10,221
土地	10,129	9,524
その他(純額)	5,350	6,261
有形固定資産合計	26,532	26,008
無形固定資産		
のれん	1	0
その他	212	190
無形固定資産合計	214	191
投資その他の資産	11,030 ₁	10,966 ₁
固定資産合計	37,777	37,166
繰延資産	64	52
資産合計	95,432	94,743

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,581	14,686
短期借入金	18,077	17,113
未払法人税等	615	374
賞与引当金	1,230	1,254
その他	10,190	11,551
流動負債合計	47,695	44,980
固定負債		
社債	5,100	4,700
長期借入金	12,309	15,002
退職給付引当金	1,766	1,695
その他	3,361	3,502
固定負債合計	22,537	24,899
負債合計	70,232	69,880
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,899	9,899
資本剰余金	10,620	10,620
利益剰余金	7,422	7,365
自己株式	2,246	2,247
株主資本合計	25,695	25,637
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	76	9
繰延ヘッジ損益	423	755
為替換算調整勘定	213	214
その他の包括利益累計額合計	713	960
少数株主持分	218	185
純資産合計	25,199	24,862
負債純資産合計	95,432	94,743

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	128,086	128,313
売上原価	116,552	116,975
売上総利益	11,533	11,337
販売費及び一般管理費	10,341	10,577
営業利益	1,191	760
営業外収益		
受取利息	24	24
受取配当金	47	39
不動産賃貸料	334	252
受取保険金及び配当金	198	181
持分法による投資利益	17	90
その他	265	271
営業外収益合計	887	860
営業外費用		
支払利息	294	257
不動産賃貸費用	144	104
その他	133	109
営業外費用合計	572	471
経常利益	1,506	1,149
特別利益		
固定資産売却益	0	-
負ののれん発生益	155	-
特別利益合計	156	-
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	20	23
減損損失	65	-
投資有価証券売却損	-	2
投資有価証券評価損	418	181
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	344	-
特別損失合計	849	207
税金等調整前四半期純利益	813	942
法人税、住民税及び事業税	478	328
法人税等調整額	610	186
法人税等合計	131	514
少数株主損益調整前四半期純利益	944	427
少数株主損失()	38	37
四半期純利益	982	465

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	944	427
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	113	88
繰延ヘッジ損益	853	332
為替換算調整勘定	16	1
持分法適用会社に対する持分相当額	-	1
その他の包括利益合計	756	246
四半期包括利益	187	181
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	226	218
少数株主に係る四半期包括利益	38	37

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	813	942
減価償却費	1,090	1,210
減損損失	65	-
賞与引当金の増減額(は減少)	73	29
退職給付引当金の増減額(は減少)	13	7
貸倒引当金の増減額(は減少)	26	43
のれん償却額	1	1
負ののれん発生益	155	-
受取利息及び受取配当金	71	63
持分法による投資損益(は益)	17	90
投資有価証券評価損益(は益)	418	181
投資有価証券売却損益(は益)	-	2
支払利息	294	257
固定資産除却損	20	23
固定資産売却損益(は益)	0	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	344	-
売上債権の増減額(は増加)	1,620	1,115
たな卸資産の増減額(は増加)	3,008	1,219
前渡金の増減額(は増加)	1,241	1,156
仕入債務の増減額(は減少)	2,369	2,072
その他	532	285
小計	1,343	588
利息及び配当金の受取額	82	82
利息の支払額	305	262
法人税等の支払額	349	573
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,916	1,341
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	155	158
定期預金の払戻による収入	132	155
投資有価証券の取得による支出	11	431
投資有価証券の売却による収入	-	12
固定資産の取得による支出	1,107	1,642
固定資産の売却による収入	11	50
短期貸付金の純増減額(は増加)	368	73
長期貸付けによる支出	118	72
長期貸付金の回収による収入	329	266
子会社株式の取得による支出	1,189	1
その他	82	205
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,658	1,539

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	3,804	480
長期借入れによる収入	1,287	6,450
長期借入金の返済による支出	2,418	2,298
リース債務の返済による支出	231	277
社債の償還による支出	490	400
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	7	-
配当金の支払額	522	522
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,435	3,431
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	1
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,153	549
現金及び現金同等物の期首残高	13,438	10,227
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	160
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,285	10,617

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間において、連結子会社であった㈱美保野パークは持分割合が減少したため、連結の範囲から除外しております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間において、連結子会社であった㈱美保野パークは持分割合が減少し、関連会社になったため、持分法の適用範囲に含めております。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 570百万円	1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 557百万円
2 偶発債務 連結子会社以外の会社の金融機関等からの借入等 に対し、債務保証を行っております。 ㈱阿久根食肉流通センター 1,894百万円 セブンフーズ㈱ 1,831 〃 その他 1,160 〃 計 4,885百万円	2 偶発債務 連結子会社以外の会社の金融機関等からの借入等 に対し、債務保証を行っております。 セブンフーズ㈱ 2,061百万円 ㈱阿久根食肉流通センター 1,841 〃 その他 1,837 〃 計 5,740百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 2,917百万円 賞与引当金繰入額 721 〃 貸倒引当金繰入額 10 〃	1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 2,858百万円 賞与引当金繰入額 710 〃

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 11,536百万円 預入期間が3ヶ月超の定期預金 251 〃 現金及び現金同等物 11,285百万円	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金 10,875百万円 預入期間が3ヶ月超の定期預金 258 〃 現金及び現金同等物 10,617百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	522	7.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	522	7.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

当社は、生産肥育から食肉の処理加工、製造、販売に至るまでの事業を主に国内で行う「食肉関連事業」を中心に事業活動を展開しており、報告セグメントは「食肉関連事業」のみであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	13円16銭	6円23銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	982	465
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	982	465
普通株式の期中平均株式数(千株)	74,677	74,650

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

スターゼン株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大橋 洋史

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新居 伸浩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣田 剛樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているスターゼン株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、スターゼン株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。